

宇都宮市立富士見小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」と回答した児童の割合は、78.5%で県の肯定割合を11.8ポイント上回っている。また、「家で学校の授業の予習をしている」の問いでは、肯定的回答が63.7%で県を7.9ポイント上回った。このことは、学校全体で家庭学習の習慣を身に付けるよう働きかけた成果で、学習内容を確実に身に付け、基礎基本の定着を図ることにつながると考える。

○「将来のゆめや目標をもっている」と回答した児童は(95.7%)90%を超え、県の肯定割合を6.7ポイント上回っている。家族と将来のことについて話す割合も81%と高く、児童が将来に希望をもって学習に取り組み、家庭でも児童を支援している様子がうかがえる。

○「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」と回答した児童は75%で、県を9.8ポイント上回っている。このことは、普段から辞書を身近において学習を進めた成果と考えられる。今後も辞書の活用を奨励し、語彙を増やしたり漢字を習得したりさせていく。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答した児童は44%で、県の肯定割合を5.7ポイント下回っている。また、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と回答した児童が63.8%と、県の肯定割合を7ポイント上回っている。このことから、本校の5年児童は、自分の意見や考えを文章や言葉で表現することへの苦手意識が強い傾向にある。そこで、今まで以上にグループでの発表の機会を設けたり、授業での振り返りを文章で書かせたりして苦手意識を解消していくようにする。

宇都宮市立富士見小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・望ましい学習習慣の確立	・「家庭学習のすすめ」による家庭学習内容の提示と家庭との連携の強化	・家庭学習に関する質問項目においては、4,5年生とも県の肯定的割合を上回っているものが多い。
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習法の工夫・改善	・「めあて」「まとめ」「ふり返し」カードの提示と実践	・「授業の中で目標が示されている」「学習したことを振り返る活動を行っている」「ノートには目標とまとめを書いている」の項目においては、4,5年生とも県の肯定的割合を上回っている。
・基礎基本の確実な定着	・朝の学習時における漢字や計算練習の実施・ステップアップシートの活用	・漢字の読み書きについては、4,5年生とも県の正答率を上回っている。数と計算の領域については、県の正答率とほぼ同等である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えを文章にまとめて書くことや、話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすること、自分の考えや意見を発表するなど表現力に関わる項目では、肯定的割合が県よりも低めである。	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習法の工夫・改善	・明確な目的のある「対話的な学び」の場の設定 ・自分の思いや考えを表現し学び合う学習活動の実施 ・対話的な学びを深める教師のコーディネート力の向上